



No. 607
2018.6.8

京大職組
文学部支部

2018年5月8日

2017年度アンケート調査を基に

文学研究科長&事務長懇談会実施(報告)



5月8日 文学部支部委員会は4月から新たに就任された南川高志研究科長に挨拶を行い引き続き、昨年12月に実施した文学部支部アンケート結果に基づき懇談会を持ちました。懇談会には、井本事務長も出席されました。

組合：お忙しい中、このような場を持つていただきありがとうございます。今後いろいろな案件でお願いすることもありますが、これまで通り組合との信頼関係を重視して対応していただきたい。

南川研究科長挨拶

皆さんには日ごろお世話になっています。今後ともよろしくお願ひしたい。

基本的に大切にしている思いは、学生にとっては学びがいのある、職員にとっては教育研究環境の良い、職員にとっては働きやすい文学部に引き続きしてゆきたい、ということです。

京大総長はトップダウンの運営はしないとされているし、文学部も

トップダウンの体制はなじまない。そのために皆さんの協力をお願いしたい。

教育研究問題

国際連携文化越境専攻開設について

組合：昨年、国際連携文化越境専攻が開設された。国際化という面で評価する一方、アンケート結果でもまだよくわからないという人が多くいる、教員にとってもだが、職員にとっても影響があると思うが、どのように今後考えておられるか。

研究科長：膨大な書類作成と長い年月を費やし、やっと実現した。ドイツから5名の学生が来ることになっている。ドイツ側の参加は積極的だが、日本側の認知度がまだ低く弱い。ドクターコースを作るのは大変であるが、将来がよく見える形にし、力のある学生を育てていきたい。受け入れる教員、職員の負担増は予想されるが、過剰な負担にならないように、先生や事務に意見を聞きながらやっていきたい。

指定法人について

組合：昨年、京都大学が指定大学法人として指定され、京大の人文系学部が重視されることになった。どのように取り組みを進めていくのか、お考えをお聞きたい。

第3期中期計画について

研究科長：人文系の学問について一定期間で成果をあげなさいというのは無理がある。また、第3期中に評価を受けることは確実であるだろう。しかし、予算は少なく、何か新しいことをするということは難しい。これまでの業績、現在の仕事を評価してもらおうようにしたいと、近々皆さんと相談したいと思っている。

組合：第3期中期計画についても、教員の負担が重いとの声が多いが。

研究科長：エビデンス書類に忙殺される、評価疲れを減らしたい、本部の仕事として回せないかと思っている。負担を減らし、新たなことはしないで、通常の実績で対応できないかと考えている。

男女共同参画

組合：アンケート結果では、73%が男女格差はなくなっていないと回答している。「2020年までに指導的な地位に占める女性の割合を30%にする」というポジティブ・アクションが出されたが、女性の研究者・教員の比率依然として低い状況になっている。

文系共通事務部

組合：アンケート結果では、「事務改革が進んだ」、「後退・変わらない」がそれぞれ25%ずつ、「わからない」が40%であった。5年がたち、混乱は収束、落ちついたとの印象はあるが、業務の交流ができたとの意見がある一方、「二度手間」との意見も毎年聞かれる。

事務職員については、「10年後(2019年)までに女性比率を少なくとも専門職員25%、専門員15%、課長・事務長以上10%以上とすることを目指す」という「京都大学男女共同参画推進アクションプラン」が出されたが、その目標は達成できる見込みで、女性の管理職への昇進はまだ少ないが一定の前進はあった。
時間雇用職員の労働環境が改善されないのはほとんどが女性であるためとの意見もあり、男女格差がなくなっていないと感じられている。社会の情勢が改善されないと格差はなくならないと思う。文学研究科として、女性教員がまだまだ少ないことについて、どのように考えられているか。

研究科長：若手教員の比率を高めたり、女性教員率を高めることが求められている。しかし、第3期中に20名の教員が退職するが、人事は強制できない。

事務長：事務については努力はなされているが、過去には、女性が昇格することになじまない環境状況があった。

今後これをいかに解消していくかが課題だと思いがどうか？

事務長…二度手間となっているものがあるのは事実。また、共通事務部で対応しきれない多様な業務が部局に残っているのも事実である。共通事務化の効果の検証をしっかりと行い、必要に応じて改善・見直しを考える時期だと思う。今後も共通事務部に関して必要な意見は上げていきたい。

時間雇用職員問題

組合…5年期限の撤廃を。この問題の弊害は大きい。東大は5年期限を撤廃した。アンケートでは5年任期への賛成意見はゼロだった。ぜひとも学部として声を上げてほしい。

事務長…文学部としては、個人を大事にして育成していくという方針は変わっていない。そのため例外的措置は否定していない。今後も文学研究科らしい対応をしていきたい。

本部からは今のところ方針変更の連絡はない。

組合…2004年の国立大学法人化の翌年以降雇用される時間雇用職員に対し、雇用期間に最長5年迄の期限がつけられるようになり、現在に至っている。該当する職員は大きな不安を抱えながら勤務していることがアンケート結果にも表れている。回答としては、「5年期限を撤廃した方がよい。」という声が回答者の8割を超えている。

昨年12月に東京大学が5年期限の制度を撤廃したという報道を受けて、「京都大学もより明確な方針を打ち出すべき。」との回答が上がっている。また、雇用期間に5年の期限をつけることが「業務の継承の障害になっている」という回答も、毎年多く見受けられる。

さらに、本年4月1日より労働契約法が改正され、有期労働契約が5年以上続けて更新された場合、本人の申し出により無期に転換できるというルール（無期転換ルール）が導入された。このような情勢の中で、京都大学が継続している5年期限の制度は、時代の流れに沿わなくなってきたように思われる。期限を撤廃していただけるように、部局として京大の上層部に声を上げてほしい。

研究科長…文学部としての対応については、今までの経緯を（事務長から）聞いています。

東大が撤廃したことも知っている。京大全体の制度が変わればそれに従うが、今のところは従来通り文学部らしい対応をして行きたい。

事務長…就業規則では最長5年迄の任期になっているが例外措置があることも承知している。一律に例外措置を否定するつもりはなく、これまでと同様の対応をして行きたい。



施設・設備

事務長…書庫の雨漏りがもつとも深刻な問題と考えている。抜本的な対策を講じるための予算確保を目指している。施設部に相談できる体制を整えている。

研究科長…図書館のスペース不足や教室設備の不備があることなど、深刻な問題があると考えているが、予算の問題などもあり、なかなか対応が難しい。

文学部支部総会を開催します！

日時：6月22日（金） 12：00頃より
場所：1F会議室（（文系）共通図書事務室の向い側）
★お弁当をご用意致します。
ご参加いただける方は、6月19日（火）までに、お近くの支部委員までご連絡ください。宜しくお願い致します。
<参加連絡先>
坂田（図書掛<閲覧>内線）2716 sakata.ayako.5e@kyoto-u.ac.jp
今野（図書掛<閲覧>内線）2715 imano.sosuke.5v@kyoto-u.ac.jp
似内（共通図書目録掛内線）83113 nitanai.kanako.2u@kyoto-u.ac.jp

**～文学部の組合員のみなさまへ～
文学部教員支部役員&中央役員選挙**

6月に入り、次期文学部教員支部役員及び中央役員を選出する時期となりました。選挙は下記の日程で行いますので、お忙しいとは存じますが何卒宜しくお願い致します。

記

<文学部教員支部役員の選挙>

投票期間：2018年6月7日(木)～6月15日(金) 12時
投票場所：文学部事務室（教務掛・図書掛）投票箱
（文学部教員メールボックス史学科系の上に設置）

<中央役員の選挙>

投票期間：2018年6月11日(月)～6月27日(水) 17時00分
投票場所：文学部事務室（教務掛・図書掛）投票箱
（文学部教員メールボックス史学科系の上に設置）

※支部、中央とも同じ投票箱です。

